

第3章 目指す仙台の教育の姿

目指す教育の姿について

<p>目指す教育の姿について</p>	<p>福祉活動をしている視点からの意見であるが、計画案8ページの「目指す教育の姿」の「自らを認め自らを信じる力」について、もともとそういう力というものはあるのだろうかと感じた。集団で勉強している時に互いに認め合い信じ合う、仲間とともに育つという環境があることが大切になってくると思う。引きこもりがどんどん増えている中でこのような文章でよいのかと疑問に思っている。住民の中でも主体的に関わってくれる人が少ない。これからの仙台をつくる意味での大きな課題になるのではないかと(荒川委員)</p>	<p>第3章の目指す仙台の教育の姿という部分はもともと10年間で育む必要な力として第1期計画で掲げ、これをもとに表記をしたものである。只今ご意見にあったように社会の中で大変厳しい状況にあって、不登校や引きこもりの方もいらっしゃるという中で、教育に携わる者として目標として、現状を踏まえつつ、少しでも変えていくものとしてこの計画を立てて進めていく必要があると考えている。この計画の中でも、不登校の子どもたちに対するより丁寧な対応や学び直しなどの支援ということについても工夫をしているところがあるのでご理解いただきたい(理事)</p>
--------------------	--	---

第4章 取り組みの基本的方向

「仙台カラー」

<p>仙台カラー(全体)</p>	<p>この委員会を立ち上げたときから基本的方針として仙台カラーにこだわり話し合いを進めてきたが、きちんとした形に仕上がったという印象を受ける。パブリックコメントもこれだけの数が寄せられ、教育に対する関心の大きさを感じた。あと一步というところまで来て、皆さんとこれまで話し合ってきたことが凝縮されて感激した。特に仙台カラーについてはしっかりと話し合い、ここが仙台の特徴だということが6つのカラーとして打ち出され、大変すばらしく仕上がったと思う(副委員長)</p>	
<p>仙台カラー6</p>	<p>「仙名城跡の調査・活用を進め・・・観光客がより一層楽しめる機会を創出します」という修正案が出されているが、具体的に「楽しめる機会」とはどのような機会を考えているのか(深澤委員)</p> <p>(回答を受けて) 具体的に何かあるわけではないのであれば、表現を工夫した方がよいのではないかと。表記することで期待を持たせてしまうのではないかと(深澤委員)</p>	<p>主眼としては子どもたちが学べる機会を設けていきたいということであるが、今後仙名城跡の活用を図る中で観光客・市民・子どもたちに対し、いろいろなアイデアを出しながら実施していくためにこのような表現とした(総務課長)</p> <p>この部分の表現はこれより後退すると今の取り組みと何が違うかということにもなりかねない。仙名城跡は今後も発掘調査の可能性が残されており、さらに現在の資源をさらに知っていただき活用することを強化していく必要がある。また日本遺産に認定されたことも新たな資源としての側面も生まれたことから史跡としての価値を高め市民や児童生徒に一層定着を図ることも大事で、東西線の開通によりインバウンド面からも魅力のあるものとして親しんでもらうために努力してまいりたいという宣言でもあるので期待していただきたい(教育長)</p>

基本的方向1 「学校教育」

<p>特別支援教育にかかる意見について</p>	<p>パブコメにおける特別支援教育関連の意見が多い印象を受けた。学級編制や学校の設置などかなり具体的なものが多く、計画の中で応えていくことは難しいのではないかと感じつつも、その部分に関心を寄せている方が多いのだと改めて感じた(野口委員)</p>	
<p>特別支援教育等にかかる取り組みのアピールについて</p>	<p>本市は特別支援教育だけではなく、障害者福祉にかかる取り組みは割と先進的であるのにアピール不足の感が否めない。もう少し取り組みを前面に打ち出してもよいのではないかと考える(野口委員)</p>	<p>国のインクルーシブ教育システムの構築の方向性に基づいて障害のある子どもたちの多様な学びの場の確保を行うとともに、周りの子どもたちの教育にも広げてまいりたい(特別支援教育課長)</p>
<p>インクルーシブ教育システムにかかる意見について</p>	<p>2件の意見があったが捉え方が異なっているように感じた。79番はどちらかというとインクルーシブ教育が広くとらえられており特別支援教育が軽視されている印象がある。84番についてはインクルーシブ教育はもう少し広い考え方であることを明記していくべき、との内容。委員会の議論ではインクルーシブ教育は特別支援教育だけに関わることではないという考え方のもと進めてきたことを踏まえ、どのように表記するのかお聞かせ願いたい(野口委員)</p>	<p>本市の考え方として、障害のあるお子さんたちを中心に、障害のないお子さんたちを含めての理解を深めるための教育を進めていくことについて計画の今後の方向性・取り組みで述べている(特別支援教育課長)</p>

ICTの有用性にかかる意見について	51番の意見は危険性だけではなく、ICTを手段として有効に使えるところはしっかり使った方がよいというもの個人的には受けとめたが、反映するならば一つは子ども自身がスマートフォンやタブレット等を相手を傷つけるために使うのではなく自分の学習に有効に機能するように使うことかと思うが、計画案の36ページ(基本的方向4「教育環境」)ミッション5施策1に「ICTの基盤整備をして情報活用能力を育むという表記で補完できていると思う。ちなみに37ページの今後の方向性・取り組みについては、いまだタブレット端末は多くの人が使用しているので「先進的な機器の」のいう表記は必要ないと思う。「タブレット端末などの情報機器の効果的な活用を検証しながら」と修正した方がよいのではないか。二点目は先生が有効に使うという観点であれば、20ページ(基本的方向1「学校教育」)の基礎的知識の定着が十分でない子どもに対する今後の方向性・取り組みの一つ目の項目「分かる授業」づくりといった観点でもICTは活用されているので、プラスイメージとして盛り込むのが一つの対策ではないか(堀田委員)	事務局の考える方向性と合致しているので、書き方を含め、改めて検討してまいりたい(総務課長) ⇒P20に反映
保健室の役割について	パブコメの46番の不登校対策についての保健室の意見に関しての回答ができていない。保健室には不登校対策や居場所としての役割があることについて何らか表記があってもよいのでは(委員長)	趣旨に合致するような形での表現の見直しを考えたい(総務課長) ⇒パブコメNo. 46に反映
シティズンシップ教育について	計画案の21ページ、ミッション4 施策1に「シティズンシップ教育」という用語が新たに表記されたが、経緯について教えていただきたい。あわせて計画を目にした人が言葉の意味はわかるのだろうか(鍋島委員) (回答を受けて)前回の意見要約には「主権者教育」との表記となっている。その方が分かりやすいのではないか(鍋島委員) 何のための教育かと考えたときに地域社会を担う一員をどのように育てるかに行きつく。これを表す言葉がシティズンシップ教育である。事務局の説明にもたつとおり主権者教育だとしても18歳選挙権が導入があったためにそちらと連動してしまう懸念がある。まだまだ一般的ではないので表現や説明の方法は検討していただきたい。(伊勢委員)	前回の委員会での伊勢委員からのご意見と、教育委員会での教育委員の方からのご意見をふまえ、小さいころから市民の一人として社会の中で主体的に生きることを学ぶことが大切であり、文面に反映させたものである。(総務課長) 主権者教育という言葉自体が昨今18歳選挙権にまつわる話と連動されたイメージで捉えられてしまう面もあったことから、計画ではシティズンシップ教育という言葉を使ってはどうかと事務局で考えたところである(総務課長) 欧米では成熟しているシティズンシップ教育だが、日本はこれからで、名前もなじみが薄い。しかし小中学生から社会的教養を身につける教育を表す教育であると思う。用語解説を設けるなど、事務局で整理してまいりたい(教育長) ⇒P21に反映
外国人子女等指導協力者派遣事業について	計画案23ページの用語解説に誤字がある(×母国 ○母語)。加えて同事業のボランティアには母語で指導する方と日本語で指導する方がいるので、日本語による指導についても表記いただきたい(田所委員)	ご指摘の部分の修正とご趣意を踏まえた表記に改めたい(総務課長) ⇒P23に反映
子ども体験プラザについて	否定的な意見が寄せられたが、その回答にボランティアの方々から高い評価を受けているとあり、本当に良かったと思っている。本校でも実施の際は民生委員の方をはじめとしたボランティアの方にお手伝いをいただくが、その方たちから参加した生徒が「大人の大変さが分かった」とか「親のありがたみが分かった」といった感想を持ちたり、一方で好ましくない言葉遣いなどを見受けることもあるので保護者にも参加してもらえれば啓蒙にもつながると話している。 パブコメの65番の回答に関連して、ファイナンスパークでの協賛企業との定期的な情報交換は行っているのか(熊谷委員)	ステューデントシティは協賛企業からブース提供とともにすべての体験活動にボランティアの方を派遣いただいております。常に運用の方法や取り組みについて情報交換を行っているが、ファイナンスパークはブースの提供のみいただいておりますので、定期的なやり取りは今のところ行っていません(学びの連携推進室長)
性に関する問題について	命を大切にす部分の問題については出てきていたが、最近の子どもたちの性に関する問題や教育がなかなか取り上げられない。命の大切さという部分とあわせて何か考えていく必要があるのではないか(荒委員)	ご指摘のあった部分に関しては、学校教育の中では保健体育の学習の中で位置づけ、計画的に実施している。同時にお互いを尊重する心も同時に育てていくことが大切であると認識している(学校教育部参事)

防災教育について	先日(11月22日)早朝の地震発生の際は、防災教育推進組発表校として取り組んできた防災教育の大切さを改めて感じた。学校で自宅では防災リュックに何を入れるかといった課題を出す和家庭で話し合ったり実践をし、それが保護者や地域に広がることも感じている。 仙台カラーで仙台版防災教育とうたっているの、ぜひ計画案22ページのミッション5 施策1でも「仙台版」と加えていただけないか(古澤委員)	確かにご指摘の通り。内容を精査して正しい表現に変えるよう検討したい(理事) ⇒P21に反映 七郷小学校が佐藤健委員のご協力もいただきながら、文部科学省の研究開発校として防災教育にとり組んでいるが、児童が自分の頭で考え行動し学ぶ、教師がそれを引き出す授業になっている。まさしくアクティブラーニングであり、全小学校中学校に普及拡大することが我々の次のミッションである。先日の地震の発生自体は悲しいことではあるが、大きな経験になる。これからは震災を知らない子どもたちが入学してくる。今後は語り継いで、学び継いでいかなければならないことを実感している(教育長)
基本的方向3 「地域・家庭」		
コミュニティスクールについて	計画案7ページ(第2章 3 国の動向)にコミュニティ・スクールの表記があるが、仙台市ならではの連携・協働のあり方としては学校支援地域本部の全市展開があるが、国で明確に示しているコミュニティ・スクールとは別の取り組みを行っていることを市民が理解しているのか(佐藤健委員)	本市はコミュニティ・スクールは設置せず、学校支援地域本部を主体的意に拡大してきた。西日本の地域ではコミュニティ・スクールが活用されているが、これは地域の特性であり、仙台は学校支援地域本部のほうがフィット感があり取り組みを進めてきた。今後国において制度化されることが仮にあった場合は検討を進めてまいらねばならないが、今のところはこの形こそが仙台カラーとしてなじんでいると考えている(教育長)
学校の行事における保護者の学びの機会について	パブコメ109番に関連して、学校の行事とあるが、PTAでもいろいろと学べる機会などを考えているので、学校、家庭、地域と連携などといった形で加えていただきたい(久光委員)	表現については考えてまいりたい(総務課長) ⇒No.109に反映
基本的方向4 「教育環境」		
校務支援システム導入に関する意見について	教職員多忙化解消に関連して、校務支援システム導入が新たな事務の増加や多忙化につながるといった意見があるが、システム導入前の意見として多いものである。導入されれば違うことがすぐお分かりいただけると思う。 対して122番の回答には情報の一元化によるメリットが記載されている。34ページ(基本的方向4「教育環境」)の今後の方向性・取り組みに業務の効率化をうたっているが、人的配置と業務見直しに加えて校務システムの機能の説明が加わるとより導入する意義が伝わりやすくなると思う。意見として出ているシステム導入の話にかこつけて給食費の見直しや人員増の話に対して誤解のないようにも表記が必要と思う(堀田委員)	事務局の考える方向性と合致しているので、書き方等を含め、改めて検討してまいりたい(総務課長) ⇒P34に反映
教員の多忙化解消について	計画案34ページの施策1の今後の方向性・取り組みにある内容は、教員の多忙化対策ではなくいじめ防止等に関するものではないか。多くの意見が寄せられているが、納得する内容なのかと感じた。また、仙台カラーとして打ち出したが、今後5年で学校現場が計画を見てどのように具体的に授業に取り上げていくのか不安を感じた(三塚委員)	
その他		
パブコメの公表について	パブコメに対する教育委員会の考え方は一般にも公表するのか。	パブコメを実施した場合は、いただいたご意見に対し考え方をホームページ等で公表しなければならないこととなっているので、今後実施してまいる予定である(総務課長)
追加意見		
文言の修正について	①21ページ 学校教育ミッション4施策1「今後の方向性・取り組み」の「総合的学習の時間」は「総合的な学習の時間」の誤りではないか。 ②17ページ 注釈の下から5行目にコロンの2つある(堀田委員)	ご指摘について修正する(総務課)
第3章の表記について	8ページ 第3章 目指す仙台の教育の姿 1 育みたい市民の力の冒頭 流れとしては情報化の方が一般的。文脈からすると、「急速な情報化」の方が適切ではないか(堀田委員)	ご指摘について修正する(総務課)
シティズンシップ教育の表記について	シティズンシップ教育の表記は、今後の方向性の2つ目の項目の後に表記した方がよいのではないか(鍋島委員)	シティズンシップ教育は検討委員会においても今後重要な取り組みに位置づけられていくといった認識の共有が図られた段階であるので従来の部分の表記が望ましいと考える。一方で、自分づくり教育やたくましく生きるプログラム(たく生き)は多くの方々のご協力をいただきながら浸透が図れてきているものの、いまだ各学校での取り組みに温度差がある状況。目指す部分や趣旨は、シティズンシップ教育と重なる部分も多いものの、まずは引き続き自分づくり教育、たく生きを実施し全市でより充実していくことで、市民意識や社会を担う人材育成に必要な資質・能力を育んでまいりたいと考えている(学びの連携推進室)

学校教育のミッションの構成について	ミッション4の内容はミッション1施策2「互いを理解し思いやる心を育む取り組みと密接に関わっている」なので、ミッション2とした方がよいのではないか(鍋島委員)	ミッション1の「豊かな心」、ミッション2の「健やかな体」、ミッション3の「確かな学力」の3つをバランスよく育むことで、社会の一員として変化の激しい社会をたくましく生きる力(ミッション4の未来の創り手となるための力)を育むことにつながるため、構成上このような順にしている(総務課)
仙台カラーの構成について	基本的方向の並び方に整合性を取るのであれば、1-3-2-5-6-4の順番に並べ替えるべきではないか(鍋島委員)	ご指摘を踏まえ一部修正する。なお、「地域とともに歩む学校づくり」については、基本的方向1の学校教育とも密接に関係する内容であることから、基本的方向1の次のカラー4に位置付けている(総務課)